

【理事会企画】

現地視察動画「旅立ち 阿賀から不知火へ」

退院支援研究会	本間 毅
同	本間 樹里
新潟水俣病訴訟を支援する会	萩野 直路
映像監督	嘉村 学

【初めに】

新潟水俣病の原因企業、昭和電工鹿瀬工場跡から、阿賀野川に沿って河口の松浜地区までの道のりを、萩野直路作成の資料をもとに紹介する。

【視察する場所の概略】

1. 旧昭和電工鹿瀬工場、現在は新潟昭和株式会社。
昭和3年水力発電を開始、原石山から石灰石を採取する人夫は吊り橋で山に入った。昭和35年に石灰石が枯渇し閉山。アセトアルデヒド生産プラントは水俣病公表後に撤去され証拠は隠滅された。
2. 千唐仁（せんとうじ）
この地域は阿賀野川中流にあり、昭和53年当時、戸数98戸のうち85戸が川船を所有。肉屋、魚屋はなく、川舟所有者が捕る魚介類が住民の主な蛋白源であった。良質な砂利や砂の採取も行われていたこの地に、水俣川の石からできた水俣地蔵様が水俣を臨み、水俣では阿賀の地蔵様が水俣地蔵様に目を向けている。
3. 新潟県立環境と人間のふれあい館～新潟水俣病資料館～
平成7年の新潟水俣病被害者の会・新潟水俣病共闘会議と昭和電工の間の解決協定を契機に建設された、新潟水俣病と水環境をモチーフとする施設。水環境の大切さを理解するため、水の公園「福島潟」に設置された。配布されている県発行の「新潟水俣病のあらまし」には、齋藤恒医師の業績や著書は紹介されていない。
4. 松浜
阿賀野川の河口右岸にある松浜は古くからの漁師町で、海と川で漁をし、魚の行商によって生計をたてていた。松浜の主婦たちはボテフリと呼ばれ、昔は新潟市内だけでなく、自転車で20km以上離れた町で魚を売っていた。新潟水俣病が公表されると、松浜の人たちは行商がなりたたなくなることをおそれ、漁協が中心となって地域ぐるみの「水俣病隠し」をした。そのため、新潟水俣病公表直後に行われた第一次一斉検診では、松浜は川魚を食べていない対照地区とされ水俣病の認定が遅れた。

【教訓】

河川や海へ流された有害な物質は、希釈されずに蓄積・濃縮される可能性がある。